

有明工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	空間デザイン
科目基礎情報					
科目番号	0018		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	創造工学科(建築コース)		対象学年	2	
開設期	後期		週時間数	後期:1	
教科書/教材	適宜参考図書を指定。また、用具として、水彩用具(12色以上)、色鉛筆(12色以上)、黒鉛筆(2Bか4B)およびスケッチブック等が必要である。				
担当教員	正木 哲				
到達目標					
1. 色の性質や効果を説明できる。 2. 物体や空間に生じる光と影を理解し、建築パースに表現することができる。 3. 有名建築物の空間構成の特徴を建築パースで表現できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安		
評価項目1	色の性質や効果を十分に説明できる。	色の性質や効果を説明できる。	色の性質や効果をあまり説明できない。		
評価項目2	物体や空間に生じる光と影を理解し、建築パースの中に十分に描くことができる。	物体や空間に生じる光と影を理解し、建築パースの中にある程度描くことができる。	物体や空間に生じる光と影を十分に理解せず、建築パースの中うまく描くことができない。		
評価項目3	有名建築物の空間構成をよく理解し、十分に建築パースに表現できる。	有名建築物の空間構成を理解し、ある程度建築パースに表現できる。	有名建築物の空間構成が理解せず、建築パースに表現できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習教育到達目標 B-3					
教育方法等					
概要	3年で学ぶ建築設計演習Ⅲでは、コンペ(設計競技)に応募し、住宅を設計する。そこでは、設計の内容そのものと同時に図面などをいかにわかりやすく、しかも、見応えのあるものにするかというプレゼンテーションの能力が要求される。このプレゼンテーションの能力を育成する教科の1つとしてこの空間デザインが位置づけられる。ここでは、建築に求められる感性の感覚を低学年のうち磨くため、表現方法としての色彩効果などを学習し、演習を通じてプレゼンテーションのデザイン力を養うとともに、建築パースを描く/模型を作成することによって建築作品を身近に感じることが授業の目標である。 具体的には、 1) 色の性質や効果を理解できること 2) 物体や空間に生じる光と影を理解し、建築パースの中に描くことができること 3) 有名建築物の空間構成の特徴を捉え、建築パースに表現できることである。				
授業の進め方・方法	演習中心				
注意点	建築の空間構成・デザインを学習する教科は、本教科以外に建築設計演習がある。建築設計演習では他教科で学んだことを融合させて空間を構成することになるが、さらにデザイン力の側面を強化するものとして、本教科が重要になってくる。予習すること。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	色彩の理解 (1)	色の3属性とマンセル表色法、3原色と混合、色対比、補色の関係を理解し、色彩が人間にどういった見え方をし、人間の心理や生理にどのような影響をもたらすかを説明できる。	
		2週	色彩の理解 (2)	理解した色彩理論に基づき、混色による色相環、明度や彩度を変化させたグラデーション技法、補色とその混色、進出色と後退色をつくることことができる。	
		3週	色彩の理解 (3)	理解した色彩理論に基づき、混色による色相環、明度や彩度を変化させたグラデーション技法、補色とその混色、進出色と後退色をつくることことができる。	
		4週	色鉛筆による表現演習 (1)	実際に建物等を色鉛筆で描いた作品を自分で探し、その技法を理解し描くことができる。建築のデザインの道具として色鉛筆による表現を学ぶ。単色ではなく、混色により味わいと深みのある表現技法を修得する。	
		5週	色鉛筆による表現演習 (2)	実際に建物等を色鉛筆で描いた作品を自分で探し、その技法を理解し描くことができる。建築のデザインの道具として色鉛筆による表現を学ぶ。単色ではなく、混色により味わいと深みのある表現技法を修得する。	
		6週	色鉛筆による表現演習 (3)	実際に建物等を色鉛筆で描いた作品を自分で探し、その技法を理解し描くことができる。建築のデザインの道具として色鉛筆による表現を学ぶ。単色ではなく、混色により味わいと深みのある表現技法を修得する。	
		7週	無彩色による表現演習 (1)	空間構成や柱や壁・窓などの存在感をイメージして表すためには、光と影を理解する必要がある。ここでは、黒鉛筆によりモノクロの表現技法を学ぶ。実際の建物をモノクロで描いた作品を自分で探し、その技法を理解しかつ描き方に改良を加えて描くことで光と影の表現ができる。	
		8週	無彩色による表現演習 (2)	空間構成や柱や壁・窓などの存在感をイメージして表すためには、光と影を理解する必要がある。ここでは、黒鉛筆によりモノクロの表現技法を学ぶ。実際の建物をモノクロで描いた作品を自分で探し、その技法を理解しかつ描き方に改良を加えて描くことで光と影の表現ができる。	

4thQ	9週	無彩色による表現演習（3）	空間構成や柱や壁・窓などの存在感をイメージして表すためには、光と影を理解する必要がある。ここでは、黒鉛筆によりモノクロの表現技法を学ぶ。実際の建物をモノクロで描いた作品を自分で探し、その技法を理解しかつ描き方に改良を加えて描くことで光と影の表現ができる。
	10週	建築パースの描き方（1）	プレゼンテーションに適した建築パースの描き方を習得する。
	11週	建築パースの描き方（2）	プレゼンテーションに適した建築パースの描き方を習得する。
	12週	建築パースの作成（1）	有名建築作品の図面を読み、その空間構成を理解するとともに、パースを作成し、建築空間の特徴を説明できる。
	13週	建築パースの作成（2）	有名建築作品の図面を読み、その空間構成を理解するとともに、パースを作成し、建築空間の特徴を説明できる。
	14週	建築パースの作成（3）	有名建築作品の図面を読み、その空間構成を理解するとともに、パースを作成し、建築空間の特徴を説明できる。
	15週	講評会	制作した建築パースに対する講評会を実施する
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	環境・設備	表色系について説明できる。	4	
			設計・製図	建築図面を模写し、模写した図面が理解している。	3	
			美術・デザイン	立体的な発想とその表現(例えば、正投象、単面投象、透視投象などを用い)ができる。	3	
			美術・デザイン	建築における形態（ものの形）について説明できる。	3	
			デザインプレゼンテーションができる。	3		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	100	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0